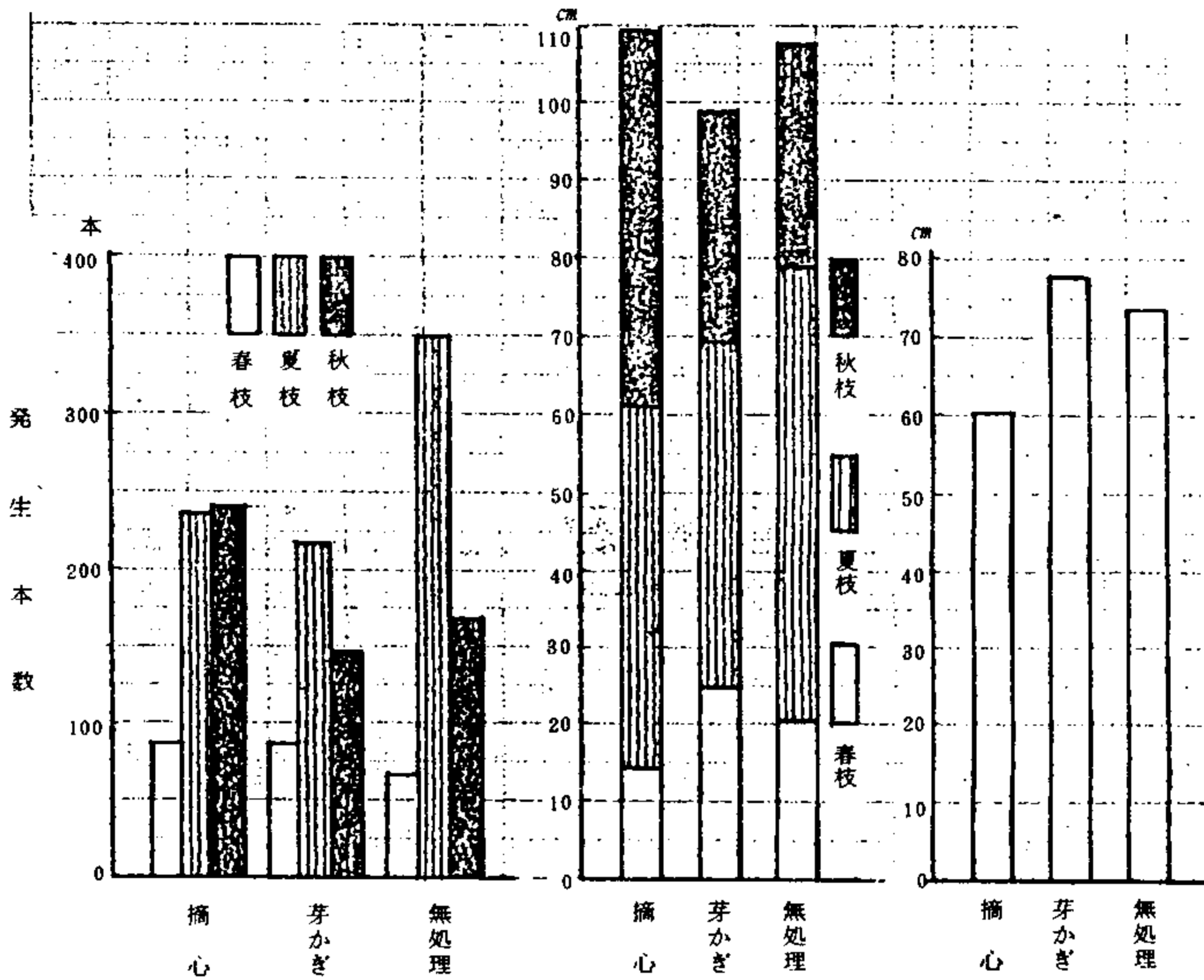


課題名	宮内伊予柑高接ぎ更新樹の枝梢処理法
成果の要約	<p>無処理と摘心処理では、枝の総伸長量では差はなかったが無処理のほうが枝が長く伸び、着葉数も多く樹冠の回復がよかった。</p>
成績概要	<p>宮内イヨカン高接更新樹において、枝梢に摘心（春枝を葉数8～10枚のところ摘心）と芽カギ（1本の春枝から数本発生した夏枝を1本に制限）の枝梢処理を行い、その後の枝の生育に及ぼす影響を無処理と比較した。</p> <p>① 無処理区は夏枝の発生が多く、1樹当りの総伸長量が大きく、また、枝の全長が長く、全葉数も多く樹冠の回復が良好であった。</p> <p>② 芽カギ区は秋枝の発生が少なく、1樹当りの総伸長量が劣り全葉数も少なかったが枝の全長はやや長かった。</p> <p>③ 摘心区は秋枝の発生が多く、総伸長量は大きかったが枝の全長が他の2処理に劣った。</p>



第1図 枝梢処理と枝の発生

第2図 枝梢処理と枝の総伸長量

第3図 枝梢処理と全長

(注) 枝の全長(接ぎ穂から発生した枝のうち最も長いものの基部から先端までの長さ)

第1表 着葉数

処 理	春		夏		秋		合 計
	総葉数	平均葉数	総葉数	平均葉数	総葉数	平均葉数	全 葉 数
摘 心	650	7	2,561	11	2,618	11	5,829
芽 か ぎ	1,221	14	2,537	12	1,579	11	5,337
無 処 理	991	15	3,561	10	1,684	10	6,236